

賛助会員訪問記
三菱電機株式会社 先端技術総合研究所
ホームページ：

http://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/randd/laboratory/advanced_technology/

平成 27 年 7 月 22 日(水)13 時 00 分~15 時 15 分、三菱電機株式会社 先端技術総合研究所（兵庫県尼崎市）を宮本泰敬総務理事、押木満雅事務局長および長田朋未事務局職員の 3 名で訪問した。先進機能デバイス技術部 佐竹徹也部長、先進機能デバイス技術部 吉田幸久グループマネージャー、古川泰助様、開発戦略部 長永隆志様、センサー情報処理システム技術部 渡邊佳正様、電機システム技術部 谷 良浩様および業務部技術情報課 唐田真由美様の 7 名の方々に対応していただいた。雲ひとつない真夏の東京を後に、静岡近辺より雨が降り出し梅雨明けとは言え不安定な空模様を車窓から眺めながら、先般の新幹線の事故など思い浮かべながらうたた寝の内に新大阪着、新快速で尼崎へ。尼崎市塚口にある広大な三菱電機株式会社敷地の一角に落ち着いた風情の先端技術総合研究所建屋があった。

応接室で佐竹様より、先端技術総合研究所の研究開発組織および研究テーマなどについてご説明いただいた。先端技術総合研究所は三菱電機株式会社の開発本部に置かれた 5 研究所（海外に 2 研究所）の 1 つであり 5 技術部門と 1 開発センターで組織され、三菱電機の全事業に関わる基盤技術から新製品開発、そして新事業の芽となる研究開発まで幅広く進められている。所属する 1000 名あまりの社員の内、約 1/4 が博士号取得者とのことである。先端技術総合研究所で行われている磁性関連の研究としては、センサーやモーターなどがある。特に車載用として使用される回転センサー・加速度センサー・エアフローセンサー・圧力センサー等の各種センサーは、信頼性を重要な課題として技術開発を行っている。研究所での開発技術を事業化するまでには、研究者と生産システム本部生産技術センターの技術者が基盤研究から生産技術までのシームレスな開発や、シナジー効果によるモノづくり力の強化を図るように工夫しているなどの説明があった。その他、研究開発者のアイデア具現化の為の社内制度であるイノベーション・イニシアチブ・プロジェクトや、国内外の大学との産官学連携に留まらず企業間連携をも図るオープンイノベーションなどの企画が進行している。特に前者は、企画立案者（パイロット）が社内プレゼン等を通して様々な専門性を持つ賛同者（クルー）を集め、新事業立ち上げに向け推進するシステムであり、大変すばらしい仕組みであると感じた。渡邊様（2007 年入社）は若手ながらパイロットとしてイノベーション・イニシアチブ・プロジェクト（20 プロジェクト）の 1 プロジェクトの牽引役として業務を進めているそうである。

その後、ショールームの見学を行った。ショールームの展示は緑：環境関連、紫：家電関連、青：社会インフラ関連と色分けされて整然と展示されていた。三菱電機グループ全体の事業に関わる最先端技術の開発拠点と銘打っているだけあって、実に幅広い分野での研究開発を行っている事を知り、興味深い内容も多く時間を忘れて見入ってしまった。

普段の生活のなかでは家電メーカーとしてのイメージが強く身近に感じられる企業であったが、今回訪問させていただき家電以外の環境や医療等の多方面にも積極的に取り組まれており、社会的使命感をもって幅広い分野の研究で切磋琢磨されている様子を伺うことが出来た。また、研究分野の垣根を越えて年齢に関係なく研究チームを作りテーマに沿った活動が出来るシステムもあり、若い研究者も意見をオープンに言えるような風通しの良さを感じた。今回の訪問を通して、より一層と三菱電機を身近に感じるようになった。



取材風景



ショールーム



先端技術総合研究所